

Anime's Skin,

アニメの表皮

原画・セルの肉体

Cel's and Key Drawing's Bodies

参加費無料
要事前申込

国際シンポジウム

～ アニメ中間素材の将来性をめぐって～

2026年 3月 29日 (日) 14時～16時30分

(開場 13時30分)

東京藝術大学大学院映像研究科 馬車道校舎 大視聴覚室

本シンポジウムは、JSPS 基盤研究 (B) 25K00427 の助成を受けています。

Anime's Skin,

アニメの表皮

×

原画・セルの肉体

Cel's and Key Drawing's Bodies

国際シンポジウム

～ アニメ中間素材の将来性をめぐって ～

かつて産業廃棄物とみなされていたアニメのセル画や原画などが注目を浴びています。それらは「中間生成物」、「中間成果物」、「中間素材」など様々な言葉で指し示されます。美術館で展覧会が開催されることも珍しいことではなくなりましたが、劣化や散逸の危機に晒されている中間素材もまた膨大な数にのぼります。原画はテレビアニメ1話分だけでも1千枚を超える一方、多くのセル画は原画もしくは動画とくっついてしまい相互侵食状態。幸運にも保存状態が良かったとしても、所有権や著作権など複雑な法的問題が絡むケースもしばしば。美術館で展示された後、果たしてそれらの行き場はどうなるのでしょうか？

本シンポジウムでは、それらアニメ中間素材が日本国内に留まらず、海外イギリスにおいても知と実践の交差するローカス（場）となっていることに注目し、博物館学とキュレーション、メディア・視覚文化研究、デジタル・アーカイブとデジタル・ヒューマニティーズの観点から議論します。

SPEAKERS



ジリアン・ラムジー (Gillian RAMSAY)

英国ダラム大学オリエンタル・ミュージアムのアシスタント・キュレーター。研究者、アーティスト、学生、地域社会と連携しながら、多様性に富んだ参加型のアクセスしやすいプログラムを提供している。考古学、博物館学、歴史学、視覚芸術、文化といった複数の分野における学部および大学院教育課程の開発にも携わっている。研究分野としては、中東・北アフリカ地域、東アジア、東南アジアをカバーしており、特に脱植民地化、周辺化された人々の声の表象、収集の歴史に焦点を当てている。



ダリオ・ロッリ (Dario LOLLI)

英国ダラム大学日本文学および視覚文化分野の助教授。執筆中の著書『Believing in Characters: Anime Media through the Licensing Dispositif』では、国境を越えた流通とグローバルなライセンス基盤を背景に、アニメのキャラクターを行為者のメディアとして理論化している。2026年夏までリーバー・ヒューム・トラスト国際フェローとして立命館大学で研究活動を展開する。『Convergence』誌、『Media, Culture & Society』誌、『Mechademia』誌、『The Cambridge Companion to Manga and Anime』(共著)などで多数の論文を発表。



三原鉄也 (MIHARA Tetsuya)

筑波大学人文社会系の助教。情報学(博士号)。研究分野はマンガの内容記述と制作・流通・保存への活用のためのメタデータ。2016年より独立行政法人国立美術館が運営するメディア芸術データベースに携わり、日本のポップカルチャー、特にマンガ・アニメ・ビデオゲーム向けのLinked Open Data構築を進めている。



キム・ジュニアン (KIM Joon Yang)

新潟大学経済科学部学際日本学プログラムの准教授。2016年以降、アニメのいわゆる中間素材(AIM)をその制作過程のドキュメントと捉えたうえで研究を進め、同素材のデータベースシステム開発およびセル画の化学的保存において工学分野の研究者と協力。2025年に採択された科研費プロジェクトでは、アニメ中間素材に対しAIモデルを用いたメタデータの抽出とその画像データの解析を進行中。

司会：布山タルト(東京藝術大学大学院映像研究科 教授)

日時：2026年3月29日(日) 14時～16時30分(開場13時30分)

会場：東京藝術大学大学院映像研究科 馬車道校舎 大視聴覚室

料金：無料 定員：80名 言語：日本語および英語(同時通訳の提供あり)

主催：新潟大学アジア連携研究センター(アニメ・アーカイブ研究プロジェクト)

協力：東京藝術大学映像リサーチセンター DoCK 準備室

東京藝術大学大学院映像研究科 アニメーション専攻 研究・理論研究室

デザイン協力：五島一浩



お申込みフォームから
事前予約をお願いいたします

お問い合わせ先：www.arc.niigata-u.ac.jp/form-contact/



本シンポジウムは、JSPS 基盤研究 (B) 25K00427 の助成を受けています。